

心ふれあう

ちょっと

おかやまのちょっといい話

シリーズ ⑧

※チラシは偶数月の第一月曜日に皆様にお届けしています。過去のシリーズはアーバンホールのホームページでもご覧いただけます。

昭和46年、暮れ。叔父さんのマンガ本。

小学校の時、俊ちゃんという親友がいました。俊ちゃんは勉強が得意な優等生で、私は遊ぶことしか考えないタイプ。性格は全然違いましたが、毎日のように一緒に遊んでいました。釣りに行ったり、メンコ遊びや、秘密基地を作ってみたり。

12月の事です。俊ちゃんから5巻セットのマンガを借りていたので、他の友達にまた貸ししてしまつて、4巻だけが行方不明になる事件が起きました。家は貧乏でしたから、母親に買ってとも言い出せず、そのうちに「もう、お前とは遊ばん!!」と俊ちゃんを怒らせてしまいました。

昭和46年当時、バーバー伊藤(仮名)という理容室がありました。伊藤のおじさんは私の叔父でした。



近所にはそこしか理容室は無かったので、同級生も私も皆、伊藤の叔父さんに髪を切ってもらっていました。年の暮れ、母親から、新年を迎えるにあたり髪を切ってくるよう言われ、行くと偶然入れ違いで俊ちゃんが出てきました。目が合ったものの、ズンズン私の横を無視して通り過ぎました。それはとても気まずい雰囲気でした。

散髪台に座って叔父さんのシャンプーが始まると、「俊ちゃんと喧嘩したのか?」と聞かれました。ドキッとしました。きつとさつき俊ちゃんが言いつけたんだと思いましたが、叔父さんから、お母さんにはばれて、すぐく怒られるんだと覚悟しました。でも、言い訳してもしようがないと思って、正直に叔父さんに話しました。

「俊ちゃんにちゃんと謝ったのか?」と聞かれて返事に困りました。私は無くした友達が悪いんだと言つて自分をかばっていたからです。そのことも正直に叔父さんに話しました。そうすると叔父さんは



「わかった。じゃあ、その棚の本持つて行け、その代わりちゃんと俊ちゃんに謝れ。そしたらお母さんにも内緒にしてやる」と差した先の待合に私が無くしたのと同じマンガがありました。

叔父さんにお礼を言つて、4巻を貰い、俊ちゃんとも仲直りすることができました。4巻はちょっと汚れていたけど、俊ちゃんは許してくれました。

私は高校卒業までずっとバーバー伊藤に毎月通いましたが、叔父さんが4巻を買い足すことはありませんでした。

毎月3巻の横に並ぶ5巻を見るたびに、自分自身を顧みる時間となりました。ある日叔母さんから、私が正直さを忘れないように4巻を買い足さないんだと聞きました。それから叔父さんの事がもっと好きになりました。なんでも相談するし、その度にアドバイスをくれました。父親が単身赴任でなかなか会えなかつたので、父親代わりの存在でした。

私が就職で地元を離れたある日、叔父さんが引退すると言つて、理容室を閉めることになりました。私はあの漫画だけ引き取りたいと思い、日に焼けたマンガを貰いました。今でも自室の本棚に1冊分空けて並べています。その一冊分には目に見えない大切な想いが今でも詰まっています。

- 一日だけ幸せでいたいならば、床屋にいけ。
- 一週間だけ幸せでいたいならば、車を買え。
- 一ヶ月だけ幸せでいたいならば、結婚をしる。

- 一年だけ幸せでいたいならば、家を買え。
- 一生幸せでいたいならば、正直でいることだ。

(イギリスのことわざ)

洋の東西を問わず、人間の営みは共通点が多くあるものです。偶然にも今回のお話は、床屋で一生の幸せに気付いた方のお話でした。そこに気付けるかどうか私たち自身にかかっているのかもしれないですね。

葬儀・法要・ギフト

あなたのアーバンホール

アーバンホール

皆様の『心ふれあう おかやまのちょっといい話』をお寄せください。

ご応募いただいた優秀な作品はアーバンホールのホームページ上・チラシなどにてご紹介させていただきます。ご意見・ご感想もお待ちしております。またご応募いただいた方全員にささやかながら粗品を進呈させていただきます。◆応募先/アーバンホール「ちょっといい話」係 〒710-0841 倉敷市堀南805-1◆記入事項/①住所②氏名③電話番号④年齢⑤エピソードご応募の方は1200文字程度(原稿用紙・ワープロいずれも可)にてお願い致します。尚、作品の返却はありません。